

スマートフォン教室 運営マニュアル

視覚障害者に対するインターネットを通じた
行政情報提供に係るWebページ構築実施



- 視覚障害者がデジタル機器を用い、さまざまな情報を得て、日常生活を充実させていけることを目指し、iPhoneによるスマートフォン教室をスムーズに開催できることを目的とする。
- （視覚障害者の多くがiPhoneのVoiceOverを使っている例が多いというヒアリング結果を踏まえたもの。）

- ヒアリングをしていく過程で、視覚障害を持つ高齢者ほど、社会の情報から取り残され、孤独な状況に置かれやすい状況が明らかになっている。
- スキルの高い人は、デジタル機器を駆使して、外部からの情報を自由に取り込むのに対して、まだ、昨今のデジタル機器に触れることすらしない人達が目立つ。
- 今回は、敷居をかなり低く設定をして、まずは、社会に出てもらう／会場に来てもらう／デジタル機器に触ってもらうことを通じて、社会へのつながりを持つことを目指す。
- 参加した人が、「これは、便利」「楽しい」「もっと使いたい」とスマートフォン利用に親しんでもらいたい。

スタッフが視覚障害者へ接する際の心構え

- 実際の受講者は、視覚障害者であると同時に、高齢であることも多い。加齢による老眼や、緑内障や網膜剥離などの疾病などの要素によるものと思われる。

(参考資料)

身体障害者の年齢階級別状況より

<https://barrierfree.nict.go.jp/relate/statistics/population3.html>

- 晴眼者が視覚によって情報を取得する場合に比べ、聴覚による情報取得は、音声の明瞭度や速度によって大きく左右されやすい。とくに中途での障害者においては、音声の聞き取りや理解に慣れていないことも多く、説明には十分な配慮が必要になる。そのときどきの受講者の態様を見きわめながら、わかりやすい言葉を選びながら、聞き取りやすい速度で伝えていくことが求められる。

(参考資料)

障害の理解のために

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shinsho/tosho/hakkou/pamphlet/syougairikai.html>

障害者差別解消に関する普及啓発

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shougai/shougai_shisaku/sabetsukaisho_yougo/sabekaikeihatsu.html

合理的配慮サーチ

<https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/jirei/>

- 受講者に戸惑いが見られるときは、進行を止めることはいとわず、講師へ尋ねてかまわない。



第1章 開催の流れ

第2章 事前調整

- (1) 目標・対象者設定
- (2) 受講希望者への確認事項
- (3) 会場・環境設備
- (4) 講師・作業人員の準備

第3章 広報活動

第4章 講座の設定

第5章 開催

- (1) 開催時の注意事項



第1章 開催の流れ

視覚障害者のためのスマートフォン教室の開催までには、3ヶ月程度の準備期間を見込む。
とくに視覚障害者のどのような態様を踏まえた講座構成とするかがもっとも需要となる。

事前準備

- ◆ 目標や対象者の設定
- ◆ 会場や環境設備の準備
- ◆ 講師や作業人員の調整

広報活動

- ◆ 広報誌告知
- ◆ ウェブ告知
- ◆ 声掛け
- ◆ 参加受付

教室カリキュラム作成

- ◆ 実施内容選定
- ◆ 当日の香盤の作成

開催

- ◆ 開催時の注意事項
- ◆ アンケートの実施

(1) 目標や対象者の設定

- どのような人に参加してもらいたいかを、まず明確に設定する。
- 実際の当事者からの生の声をヒアリングして、何が必要なのかを見極めていく。
- 今回のような視覚障害者の場合、まず、全盲とロービジョンとに態様が分かれるため、それぞれに適した講座内容も大きく異なってくる。
- どのような障害者を対象とするかにより、募集の仕方も変わることになる。

【例】①障害の種類、②障害の度合い、③高齢かどうか、④デジタル機器になれているかどうか等、事前に十分リサーチする必要がある。

(2) 受講希望者への確認事項

受講希望者への事前の連絡で障害の状態、デジタル機器の知識のレベルについて確認する

① 入門と基礎の選別

- ✓ スマホを使ったことがない→入門編
- ✓ スマホは持っているがアプリはあまり使っておらずiPhoneは使ったことがない→入門編
- ✓ iPhoneは持っているが引き出しにしまって使っていない→入門編
- ✓ スマホを持っていてアプリも使用しているがiPhoneは使ったことがない→基礎編
- ✓ iPhoneは持っている(た)が電話程度しか使っていない→基礎編

② 基礎編希望で弱視の方

→ロービジョン等の方にも音声機能を教授する旨をお伝えください。(例「便利ですよ」)

③ 受講に際し

- イ 支援者(ご家族・ヘルパーさんなど)はご同行されますか？
- ロ iPhoneをご持参されますか？

(3) 会場や環境の準備

①会場

- 視覚障害者にとって、教室にたどり着くまでが、まず関門となる。
- 会場までの道順や所在地がなるべくわかりやすく、交通機関の利便性が良いところにする。
- 参加人数に合わせて、会場を確保する。
- 受講者には、付き添い者の参加も必要な場合が多い。
- 公共施設は、公的な利用について安価に借りられることも多い。

②環境設備の準備

- 会場のWifi環境や講師用のマイクなどの会場の設備を確認し、確保しておく。
- コロナ対策のため、検温計やアルコール消毒液、フェイスガードなども用意する。

【会場アクセス・配置】

利便性を考え鉄道駅に近い会場を選択
(視覚障害者の方は、会場に来るまでが困難である場合が多い)



今回の会場は、駅直結の施設

【必要となる機材、什器】 (今回の事例での調達内容)

■手配物

<講座関係>

教材 iPhone 実機 7×4 6s×3
事後教材 11枚×30部
ユニボイスの使い方 30部
クリアファイル 30枚
フェイスシールド 20

<運営備品>

台本 20部
アンケート 30部
コンセント・タップ 1式
消毒液／ペーパータオル適宜
消毒スプレー (マイク用)
ゴミ袋

■会場備品

テーブル
イス
鍵
マイク 2本
体温計
手指消毒液



(4) 講師や支援スタッフの手配

① 講師の手配

- 主催する側に同じ組織あるいは関連組織に候補者がいる場合もあれば、外部の事業者に依頼をする場合等がある。
- 謝礼が必要な場合もある。

(次項に今回の事例を掲載)

② 支援スタッフの手配

- 付添者がある場合も、別途に主催者が用意した支援スタッフがいる方が好ましいことが多い。
- 受講者1人に対し1人以上のスタッフを確保する。
- また、高齢の参加者等に配慮した対応が必要となるため、必ず事前にオリエンテーションを行う。

視覚障害の方の気持ちをできるだけ、くみ取れるように障害との関係が深い方を選出

参考例

講師案

→iPhone/VoiceOverに強い講師を人選



井上直也(いのうえなおや)

2014年に両眼とも網膜剥離の診断を受け、右目は失明していたことがわかる。現在は両眼ともに全盲。
2016年に視覚障害者向けのiOSのプライベートレッスンを開始し、同年視覚障害者向けiPhone教室MDSiサポートを開業。
現在は、iOSを用いたデジタルロービジョンケアを行っている。

司会進行案

→障害者の事情や対応に詳しい専門家に教室全体の進行を依頼。



守山菜穂子(もりやま なおこ)

障害や難病の女性に向けて、ファッション、恋愛、仕事、お出かけ情報など、幅広いテーマを発信するフリーペーパー「Co-Co Life☆女子部」の編集に参画。
障害者の活躍の場を作る活動をボランティアとして実施。
障害者やユニバーサルデザインに関する講演経験も多数。

参加者を募集するためには、広報活動が必要となる。
 今回は、視覚障害者を対象とするため、一般のチラシやウェブでの告知だけでは、情報が行き届かない可能性もあるので、関係団体などの、声かけなども行った。

広報誌告知紙面事例

目が見えない・見えにくい方のための スマートフォン教室

市では、障害のある方が自らの障害特性に応じた意思疎通手段や情報通信手段を利用できるよう、視力・視野に障害があり、日常生活に支障がある方を対象に、スマートフォン(iPhone)を使用した教室を開催します。iPhoneの貸出しもありますので、お持ちでない方も、ぜひ、ご参加ください。

☎障害者福祉課(☎335-4545)

開3月24日(木)・25日(金)午前10時半～午後0時半・2時～4時
 ☒市民活動センター「ブラッツ」
 ☒18歳以上の市内在住・在勤・在学の方で、視力・視野に障害があり、日常生活に支障がある方／支援者の同伴可
 ☒各先着10人
 ☒無料
 ☒iPhoneの基本操作、視覚サポート機能を学ぶ
 ☒井上直也氏(MDSiサポート代表)
 ☒3月17日(木)までに、電話で同課へ※iPhoneをお持ちの方は持参してください。
 ※実施日時により内容が異なります。詳細は、同課へお問い合わせください。

ホームページ告知ページ事例

目が見えない・見えにくい方のためのスマートフォン教室

更新日：2022年3月10日

市では、障害のある方が自らの障害特性に応じた意思疎通手段や情報通信手段を利用できるよう、視力・視野に障害があり、日常生活に支障がある方を対象に、スマートフォン(iPhone)教室を開催します。iPhoneの貸出しもありますので、お持ちでない方も、ぜひ、ご参加ください。

日時

- (1) 3月24日(木曜日) 午前10時半～午後0時半
- (2) 3月24日(木曜日) 午後2時～4時
- (3) 3月25日(金曜日) 午前10時半～午後0時半
- (4) 3月25日(金曜日) 午後2時～4時

場所

市民活動センター「ブラッツ」 第3会議室(1F・シーニュ6階)

対象

18歳以上の市内在住・在勤・在学の方で、視力・視野に障害があり、日常生活に支障がある方。支援者の方も一緒に受講できます。(1人まで)

定員

各先着10人

費用

無料

内容

目が見えない・見えにくい方が、iPhoneの利用によって、意思の疎通や行政情報などを取得しやすくなることを目指す教室です。視覚に頼らない、音声による操作を学ぶことができます。
 入門編：初めてiPhoneを使う方、持っているけれどもあまり使っていない方向けの講座
 電源のオンオフ、音声による画面の操作、電話のかけ方などを学びます。
 基本編：iPhoneを持っており、その活用方法を学びたい方向けの講座
 VoiceOverを用いた、音声と指による操作を体験できます。またアプリの活用など便利な機能を学びます。

講師

井上直也氏(MDSiサポート代表)

申込

3月11日(金曜日)から17日(木曜日)までに、電話で障害者福祉課へお申し込みください。
 ※実施日時により内容が異なります。また、申込状況により実施内容の一部変更する場合がございます。詳細は障害者福祉課へお問い合わせください。
 ※iPhoneをお持ちの方は持参してください。

問合せ先

所属名：福祉保健部障害者福祉課
 電話：042-335-4545

第4章 講座の設定

参考例

具体的に実施するカリキュラムを決めていく。

1講座(60分+60分) 総時間 8時間 のべ40名想定

お集まりいただく特性により講座、時間数を決定。人数の多い講座は2回に分けるなどして合計4講座(4日)実施。
午前午後に各1講座で計2講座

入門講座

<はじめてのiPhone>

講師のデモを聞いていただき、iPhoneの特徴や基本操作を体験。

電源のオンオフから、画面操作、電話操作などを実施。

VoiceOverはあらかじめ設定しておき実施し、支援者同行の場合は、設定の仕方も学習。

基本講座

<iPhoneの使い方>

VoiceOverの設定やや基本操作を練習。

習熟度に応じて音声入力など文字入力にもチャレンジ。

ネット検索、音楽など便利なアプリの体験や利用方法学習。

アドレスをお持ちならメールの送受信なども。

各講座には 専任講師1名 司会1名 で進行。運営はディレクター1名が統括し受講者人数分の支援スタッフを配置。

一人一人の習熟度等を司会が確認しながら、講師に連携し、適時カリキュラムを進行。

授業内容の事例

【入門編】

- iPhoneの構造
- 電源オン・オフ
- 基本的なジェスチャー
- 「Siri」の操作
- 電話の操作
- 天気予報の知り方
- 位置情報の知り方
- 「VoiceOver」の操作
- 「Seeing AI」の使い方
- 「ユーメニュー」の使い方
- 府中市ホームページへのアクセスの仕方

【基礎編】

- 「Siri」の操作
- 電話操作
- 天気予報の知り方
- 位置情報の知り方
- 乗換案内の使い方
- 「VoiceOver」の操作
- 「Seeing AI」の使い方
- キョクナビの使い方
- 「ユーメニュー」の使い方
- 「Be My Eyes」の使い方
- 「Uni-Voice」の使い方
- 府中市ホームページへのアクセスの仕方

タイムテーブル例

■タイムテーブル

9:00 関係者集合準備・オリエン

10:00 開場

10:30 講座1スタート

12:30 終了

* インターバル(講師休憩)

13:30 開場

14:00 講座2スタート

16:00 終了

* 片付け

17:00 完全退館

*24日は17:00以降も借り機材残し充電等実施

予定していることが時間内に終わるように休憩時間を確保する。

質疑応答の時間も設けるようにする。

時間	LAP(分)	項目	内容	音響(仮)	備考
9:45	-45	セット	開場前に受講者の席を決め、実機等も席に置いておく。		
10:00	-30	開場	所定の席に受講者と支援者を誘導し		
10:30	1	司会挨拶	司会挨拶して自己紹介スケジュール説明	マイク1	
10:31	1	講師紹介	司会講師を紹介。講師挨拶	マイク2	
10:32	5	受講者紹介	受講者紹介。受講者お名前・見え方(程度)と支援者のお名前を確認していく。自己紹介の時間にはしないが、発言や主張がありそうな方は聞いてみる。以降司会が受講者の進捗や質問状況を把握して講師に伝える	マイク2	
10:37	30	講師デモ	iPhoneを使ってどんなことができるのかをSiriやVoiceOverのデモをまじえながら説明。時刻・天気・位置情報など、受講者の興味とあわせながら進行。	マイク2	
11:07	65	講義 途中5分程度休憩	講師が説明→受講者がやってみる→支援者及びフォロースタッフが手伝う→司会が進捗を実況・講師に伝える。 <入門編> iPhoneの特徴や基本操作を体験。まず実機に触れることから始め、電源のオンオフ、siriの使い方→画面操作→電話操作・時刻・天気・位置情報・拡大などを順にゆっくり実施。 <基本編> 基本操作のおさらい→VoiceOverや音声機能の設定や指での基本操作を練習→乗換案内・ユニボイス・拡大鏡など便利なアプリの体験や利用方法を学習。余裕があればアクセシビリティやアプリのダウンロードも実施。ご自分の実機であればお持ちのアプリなどを確認し使用してもらうなども可能。	マイク2	途中休憩あり(予定)
12:12	5	質疑応答	ここまでの疑問点、わからなかったところに対応。	マイク2	
12:17	5	講義	府中市のスマホサイトやメールサービスを紹介。	マイク2	
12:23	6	効果測定	支援者にも協力いただきスタッフによりアンケート記入。	マイク2	
12:29	1	まとめ	全体をまとめて終了	マイク2	



①進行にあたっての留意点

- ついていけない人がいないか細心の注意を払い、受講者の理解が滞らないようフォローする。
- いろいろなアプリがWebサービスを使って、スマートフォンを使いこなすことの楽しさを体験してもらうことも大切。
- 講師に質問があるときは、進行を止めることをためらわず、声をかける。

②アンケートの実施

- 受講者の声をその場で聞き、今後の改善をこころがける。
- アンケートは、特に視覚障害に即した入力形式・媒体がない場合、付き添い者や支援スタッフが口頭でヒアリングする。

【アンケート】
講座の最後に効果測定として実施。
フォロースタッフが聞き書きする。



今回の事例での記録

今回のアンケート事例

スマホ教室アンケート

本日は府中市と東京都主催のスマートフォン教室にご参加いただきありがとうございます。今後の活動の参考のために、参加者皆様のご意見をお聞かせください。

Q0-1 参加講座: 1入門編 2基礎編 日付 24日 25日

<参加者プロフィール>

Q0-2 年代 1. 20代以下 2. 30代 3. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上

Q0-3 性別 1. 男 2. 女 3. 無回答

Q0-4 障害手帳等: 1. 手帳なし 2. 手帳あり(等級:1・2・3・4・5・6)

Q0-5 携帯所有: 1. iPhone 2. Android 3.ガラケー 4. 持っていない

Q0-6 座席番号: () (参加者が特定できる情報として)

Q1 本日の教室に参加して、自分の役に立ちそうだと思いますか? SA

0・1・2・3・4・5・6・7・8・9・10

全く思わない———どちらでもない———強く思う

Q2 教室の内容はご自身の期待したものと合っていましたか? SA

0・1・2・3・4・5・6・7・8・9・10

全く合っていない———どちらでもない———とても合っていた

Q3 教室の時間の長さはいかがでしたでしょうか?

1. 短すぎる 2. ちょうどよい 3. 長すぎる

Q4 今後、スマートフォン教室を開催する場合の参加意欲についてお聞きます。

1. もう一度同じ内容のものに参加したい

2. より難しい内容のものに参加したい

3. 参加したくない(理由は)

Q5 ご自身と同じような立場の方にこの教室をお勧めできますか?

0・1・2・3・4・5・6・7・8・9・10

全く勧めない———どちらでもない———強く勧める

Q6 全般的なご意見、もしくは Q5 の理由をお聞きます。

事後の復習用に、ユニボイスを埋め込んだ印刷資料を提供する。

【ユニボイス】

音声コードの規格の一つ。文字や数字を記録して音声データとして出力できる二次元コードで、日本視覚障がい情報普及支援協会が開発。

■今回の事例

自宅振り返り用テキスト 全10枚

内容リスト

VoiceOverとSiri

IDやパスワードなどの設定

ホームボタンについて

ジェスチャーについて

電話が鳴ったら、出る方法

電話を発信する方法

アプリの開き方閉じ方

アクセシビリティ設定

拡大鏡



スマートフォン教室の実施における課題①

受講人数

視覚障害者対象の教室はマンツーマン乃至少人数がスタンダードであることがわかっていたが、今回は定員10名(同伴者があれば20名)が与件であったため、講師とは別に司会を配置して、習熟度の管理を行なった。
これは、講師が全盲であったことにもよるが、視覚障害のある受講者への対応としては有効な措置であったと考える。
少人数での開催が可能であれば司会は不要と考える。

クラス分け

当初、入門編受講者を4人程度で4回、基礎編を2回という講座構成を提案していたが、会場やスケジュールの都合で実現できなかった。
実際に教室を実行してみて、iPhoneをすでに所持している基礎編受講者の方が多様なニーズがあるので、基礎編をより少人数体制にする必要性を感じた。

講師の人選

iPhoneの専門講師であることで提案したが、本人が晴眼者から弱視者になり全盲となった経緯があるので、それぞれの状況や悩みをわかっていて、それぞれの立場で教授できる稀有な存在と言えるだろう。

設定やアプリを教えるのは、知識があればできるが、視覚を失ってスマホを使用することは想像以上に難しいことなので、障害があってもくじけずに使えるようになるためのマインドセットや楽しみを伝えられる講師を採用できたのはよかった。

講座内容

iPhoneで音声機能を中心にしたカリキュラムは最善だったと思うが、音声機能ではVoiceOverよりもSiriの方が初心者にとって利用しやすい機能と感じた。

いずれの場合もデバイスの操作設定が肝になるが、設定を自分で行うのは初心者にはハードルが高い。

今回の講座では事前に設定した実機を教材とした。

設定は一度してしまえば再度行う必要がない場合も多いため、iPhoneを所持している初心者向けの講座では、使用方法に加えて設定を教えるというより施すことをセットにすることを検討したい。

尚、視覚障害者向けAndroid端末教室は扱える講師が現状いないので、現実的ではない。設定だけなら、キャリアのショップで対応可能。